観光講座 誌上 第11回

十勝晴れ

小生は晴れ男で、台風のシーズンでも、小生が行く旅先々は晴れるという経験がある。最近は札幌も吹雪が多く、上士幌付近も極寒で吹雪と思いきや、今日はきれいな青空で、車中で陽光を浴びているとポカポカになるほどである。「やあー僕は晴れ男だからね」と言うと新得まで迎えにきてくれた深瀬氏が「いや先生、ここ十勝は国土創発事業調査モニターツアーを行った1月下旬から殆どこんな天気なんです。いわゆる十勝晴れです」と言う。確かに、国道はほとんど雪がなく、畑の土が見え始め、外温がマイナス10度と知らなければ、景色からは春を感じるほどである。

新得から車で約1時間で糠平温泉に到着する。十勝晴れの陽にきらきらと輝きながら本当に飛んでいるような2羽の白鳥の氷の彫刻で、仲良し夫婦が出迎えてくれるペンション「ふくろうの森」。夜は、産みたて新鮮なたまごや、タコまんま、十八石米など、安心、安全に注意を払ったおいしい夕食を食べながらライトアップされた白鳥の彫刻をみながらゆったりと癒されながら時間を過ごすことができる。

ここ上士幌町には、NPOイムノサポートセンターが温泉や宿舎として第1号のイムノリゾートシルバーマークに認証した糠平館観光ホテルもある。健康やおもてなしに気を配ったこれらの旅館から歩いて数分のところに国際スキー競技の公式コースに認定されている糠平スキー場があり、パウダースノーを楽しめる。ネイチャーガイドがスノーシューで雄大な自然を案内しながら、今年のJRフルムーンポスターになった北海道遺産タウシュベツ川橋梁まで案内してくれる。3月の気球も爽快だそうである。糠平湖ではワカサギ釣りも楽しめる。釣ったばかりのワカサギのフライを食べ、大吟醸を飲めばもう言うことなしである。

北海道の「健康を考える観光」拠点づくりを目指したイムノリゾート構想

健康観光の推進に必要な心温まるおもてなしと安心安全な食の提供

西村　孝司

今回の国土交通省、厚生労働省、上士幌町の発案で行った創発事業では食育やメタボ対策の枠組みも追加構築され、これで冬の花粉症疎開ツアー、通年的なメタボ対策ツアーが上士幌の健康観光として世の中に発信できる。大自然の中で、健康に良い食事をして、体が温まる温泉につかれば、どんな人でもストレスを発散でき元気を取り戻すことができる。氷の白鳥で人を迎え、癒しを与える心くばり、こんな夫婦が用意してくれる食が安心、安全でないはずがないし、一度行ったらまたリピーターとして行きたくなる。

十勝晴れの空を見上げると―無の境地

さらさらレッド入り野菜スープカレーと野菜サラダ

観光客をやさしく迎える二羽の鶴―上士幌ふくろうの森

ほうれん草のムースとゆり根のキャラメリーゼ

健康観光の推進に不可欠な心温まるおもてなしと安心安全の食の提供

中国産餃子事件から考える北海道の「健康を考える観光」推進の意義

安心安全な食を提供してくれる宿からは考えも及ばないメタミドホス混入中国産餃子事件は多方面の問題を含み、観光とは無関係のようであるが、その問題の解決は食の安心安全や、健康に良い食材の提供を含んだ「健康を考える観光」にとって多いに関連性が高く、北海道はその問題解決に優位性をもって取り組み、世界に何らかの提言をすべきである。本誌12月号の図中に記載したように、安心安全の食を担保するためには、産学官連携のフェイス ツーフェイスのコミュニケーションを構築する必要性がある。小生ら大学研究者が北海道知的クラスター〝Bio S〟プロジェクトのなかで食品の効能や毒性などを科学的に実証したとしても、それは「食の安全」のみの担保であって安心は担保できない。では安心はどうして担保できるのか？今回のメタミドホス混入食品の事件は、犯罪性の事件で防ぎようがない。しかし、この事件で多くの人は食の安心と安全をどう担保したらよいかを考え直している。

食料の自給率低下で、人々が田畑を離れ、我が国の農村はどんどん限界集落化し（町の50％以上が高齢者）、お金を出せば食料は買えるという思想のもと、人件費や価格が安い中国等から食料や加工食品を輸入するようになった。しかし、農薬やホルモン等の混入の可能性が指摘され、中国の食品に対する安心安全の疑問が出て信用が失われた。

一方、お金で買えると考えていた小麦が高騰して、ロシア産の小麦では採算が合わなくなり、北海道産小麦が見直されて始めている。北海道は言うまでもなく食料の宝庫であり、僅かな工夫によって世界に誇る安心安全な食料の供給拠点になり得ると信じる。

北海道農業の発展を支えてきた農協、ホクレンが農民のために良いと思われる仕組みは今のままキープしつつ、世界に誇る安心安全の食料倉庫として北海道をアピールするための新たな枠組みづくりにも積極的に参画する必要性がある。

もし、農民、農協、加工業者、大学研究者等からなる安心安全を担保する枠組みを作り、真剣に健康に良い食を供給する新たな仕組みを北海道に構築できれば、そのインフラは地域再生や健康観光の発展に結びつき、しいては地域格差の是正、都市と農村の交流、移住促進など北海道や国が中心政策として打ち出している問題の解決にも結びつく。

NPOイムノサポートセンターは「健康に良いもの」の認証制度を開始し、食の部門、第1号のイムノリゾートゴールドマーク認証は「キッコーマンのトマトのちから」に付与され、全国に発信される。中央卸売市場とNPOが連携して、道産食材の機能性や、毒性等を科学的に実証できる仕組みも構築され、知的クラスタープロジェクトの連携も構築され始めている。

経済産業省地域コンソーシアム事業においては、函館牛乳、乙部町、上士幌町、パイコーポレーション、植物育種研究所、北大、札医大等からなるメンバーがサントリーや食品加工センターで開発された植物性乳酸菌を用いて健康に良い「植物性乳酸菌入りタマネギヨーグルト」の開発に着手し、異分野の人間同士がフェイス ツー フェイスで議論を重ね、健康に良い安心安全の北海道ブランド食品を開発し始めている。

大学研究者の科学的データーで安全が担保され、それに加えて、野菜を作る農家、加工機械を開発する企業、野菜加工業者、ヨーグルト最終的製造社がその開発過程から真剣に協力し合い、信頼し合える体制のもと食品が製造されたことを消費者に知ってもらう事こそが「食の安心の担保」につながる唯一の方法であろう。そしてそれが「健康を考える観光」の1つの柱である、健康に良い食材や、食品を観光客に提供、啓発しながら展開する花粉症疎開ツアー、食育と免疫の体験ツアー、メタボ対策ツアー等の新たな北海道ヘルスツーリズムの発展につながる戦略になると考える。

（北海道大学遺伝子病制御研究所・免疫制御分野教授、NPOイムノサポートセンター理事長）

シンガポールから観光客来道

初めてJALチャーター便で

JALチャーター便を利用して十二月、シンガポールから観光客が来道しました。国内航空会社による当該地域からのチャーター便は初めての取り組みで、次年度も継続的に実施する意向ということです。

当連盟では、チャーター便運航はさらなる観光客誘致に弾みがつくものと考え、チャーター便利用客を温かく迎え送る歓送迎行事を実施。到着時、出発時に歓送迎横断幕などを掲示、花束贈呈や記念撮影のほか、搭乗者一人ひとりに北海道のお土産を手渡しして歓迎と謝意を表わしました。

搭乗者一人ひとりに北海道土産を手渡しした

遼寧省旅遊協会北海道視察団が来道

記念品贈呈、横断幕掲出など歓迎行事開催

一月九日、中国の遼寧省旅遊協会北海道冬季観光資源視察団の来道に伴い、当連盟では新千歳空港での記念品贈呈や横断幕の掲出など歓迎行事を開催しました。

中国からの来道観光客は年々増加しており、将来的にも有望な市場として、当連盟でも積極的な誘致活動を行っています。新千歳空港での歓迎行事に加えて同日午後六時から、サッポロビール園「GARDEN GRiLL」を会場に歓迎交流会を開催しました、交流会には遼寧省側から十二人、北海道側から二十二人が参加し、互いに胸襟を開き親交を深めることができました。

視察団一行は武虹剣旅遊局長以下十八人で、同日、北海道庁を表敬訪問。翌十日はキロロで、十一日は定山渓温泉でともにスキー場と温泉を視察。十二日は札幌市内で旧道庁、時計台、大通公園などを視察され、離道しました。

熱列歓迎の横断幕とともに視察団一行の記念撮影（新千歳空港で）

会員の購読料は会費に含まれています

どうぞよろしく

▶オホーツクきたみ菊の女王　山田真理さん（北見市）

◀ミス旭川　田中夏加さん　後藤香織さん（旭川市）

観光のお問い合わせは

■北海道観光連盟　札幌市中央区北4条西4丁目1番地　伊藤加藤ビル5階
TEL (011) 231-0941　FAX 232-5064

●北海道さっぽろ「食と観光」情報館
札幌市北区北6条西4丁目JR札幌駅1階西通り北口
TEL (011) 213-5088　FAX 213-5089

■北海道経済部観光のくにづくり推進局　札幌市中央区北3条西6丁目　道庁8階
TEL (011) 231-4111 (代)　FAX 232-4120